

1. 準備

(製品名・機種型番等は、現時点でバイオバンクが採用しているものを提示している)

- 滅菌スクリースピッツ 10 mL (栄研化学)
- 遠心管 コニカル型 15 mL (TPP)
- 48 Jacket Tubes 2.0 mL External-Type (FCR & Bio)
- 100穴フリーザーラック(2D用) (FCR & Bio)



滅菌
スクリースピッツ
10 mL
(栄研化学)



遠心管
コニカル型
15 mL
(TPP)



48 Jacket Tubes 2.0 mL
External-Type
(FCR & Bio)

2. 採取 (臨床検査部での作業)

- 2-1. 準備した滅菌スクリースピッツ 10 mLに採取。
- 2-2. 冷蔵庫に一時保存 (保存時間は個別検体情報として記録)。

3. 分離と分注 (バイオバンク試料調整室での作業) 室温 (12℃~28℃)

- 3-1. 保存している尿をバイオバンクに移送 (on ice)。
- 3-2. 遠心管 コニカル型 15 mL に尿を移し替え、4℃で2,330~2,360×g、5分間遠心分離。
- 3-3. 検体番号ラベルを貼ったチューブに (1,500 µL/tube) 分注。

4. 保管 室温 (12℃~28℃)

- 4-1. チューブは100穴フリーザーラック (2D用) に並べ、超低温 (-80℃) フリーザーで保管。
- 4-2. 検体管理システムに検体情報を入力。

➤ 採取~超低温 (-80℃) フリーザーでの保管は24時間以内に行う。